

業務分析に関する期待

平成22年度NACSIS-CAT/ILLワークショップ

2010年12月9日

滋賀医科大学 大西直樹

きっかけ（1）

（2010年9月15日 NIIアンケート）

4. 業務分析表に対して、ご要望をお知らせください。

NACSIS-CAT の図書書誌に関して、自館が書誌調整を行った件数と、国立大学／規模別／全国の平均件数

NACSIS-CAT関連業務のうちで1件当りの業務負荷が大きい書誌調整の実施状況を相対的に評価するため

きっかけ（1）

関連情報として次のような数値もあれば便利？

- 1) 自館が作成機関である書誌の累計数
※当該期間内の作成数は分析表に有り
- 2) 図書書誌修正数（できれば自館が作成機関である書誌とその他を別に）
- 3) 自館が所蔵を登録している書誌の数（累計数と当該期間内数）

きっかけ（2）

4. 業務分析表に対して、ご要望をお知らせください。

新刊図書について、NACSIS-CATに所蔵登録されるまでの自館の所要日数と、国立大学／規模別／全国の平均

新刊図書を利用者に提供するまで（ここでは目録作成までで代用）の所要日数を相対的に評価するため

きっかけ（２）

例えば、抽出統計になるが、一定期間内に新規登録された書誌のうち一定以上の数の所蔵レコードが登録されているものについて、各所蔵レコードが登録されるまでの日数を書誌新規作成日からの相対日数で計算したもの。

所蔵全件の平均値だけでなく自館より上位（短い）の所蔵だけの平均値や所蔵数などの方が有用？

きっかけ（２）

※ 目的に対して精度が高いとはいえない情報となる（Vol更新パターンの「新刊」が含まれないなど）ので、業務分析表に常に含めるというよりも、オンデマンドでこのような数値を提供頂ける仕組みがある方が望ましい。（必要な機関だけが情報精度を承知の上で使う。）

きっかけ（まとめ）

(1) 自館が書誌調整を行った件数

書誌調整の実施状況を相対的に評価するため

(2) 新刊図書について、NACSIS-CATに 所蔵登録されるまでの所要日数

新刊図書を利用者に提供するまでの所要日数を相対的に評価するため

違和感はどこから？

- a) 評価事項として無意味 【目的】
- b) 指標として不適切 【指標】
- c) 採取不可・困難 【実現可能性】

業務分析表を考えるに当たって（0）

「業務分析表」～

業務分析・評価のための統計情報

NIIの目的とは別に参加機関としては・・・

業務分析表を考えるに当たって（1）

a) 【目的】

- 業務分析・評価として何がしたいのか
- 組織の性格により異なる
一時的状況（外的要求等）により変わる

逆に既存の統計から目的を見出すことも

業務分析表を考えるに当たって（2）

b) 【指標】

- ・ 目的との適合性
- ・ 実現可能性の考慮

情報源はできるだけ広く（NACSIS-CAT/ILL内に限らない）

～ 照合キー項目の選択、精度、付与率

各情報（項目）に関する正確な知識が前提

業務分析表を考えるに当たって（3）

c) 【実現可能性】

- 情報粒度
- 情報採取の仕組み、作業負荷
- 情報処理技術

情報粒度が細かいほど

- 多様な分析が可能
- × 作業負荷が増大
- × 情報処理技術は高度化

業務分析表を考えるに当たって（４）

目的に適合する指標のデータが採取できていない場合

- システム：
自動採取するようにシステムを改変できるか
- 運用：
当該指標データ入力を必須化（義務化）できるか

業務分析表を考えるに当たって（5）

網羅性・一般性に欠ける統計情報

- 目的に適合する一部のデータのみでよい場合があるのでは？
- システム対応例：
利用図書館が処理対象レコードのID（書誌IDなど）を収録したテキストファイル等を用意 → NIIで当該書誌に限定して統計処理し、結果を返すシステムを提供

NIIに期待すること（1）

自図書館と他図書館の比較（のためのデータ提供）

全図書館とだけでなく、同種の図書館との比較
例：「医学系図書館室」（＝分館単位）の集計との比較

「同種」の判定方法：

個別事前設定 or / and 同一資料の所蔵共通比率
でシステムが判定（最近数年程度の所蔵で判定）

NIIに期待すること（2）

NACISIS-CAT/ILL以外の情報源からの情報を併せて提供

例:「新刊」を抽出するために出版情報データベースと照合して処理する

※ 標準番号類のデータ入力率は？

NIIに期待すること（3）

「業務分析表」に加えて、できるだけ集計前の 原情報の提供

目的の多様性＝必要とされる情報の多様性
→ 図書館側で分析可能な範囲をできるだけ広く

できれば、
抽出条件設定可能なインターフェース
or / and
情報のテキストファイル等での一括提供

NIIに期待すること (3)

個別図書館を特定可能であることが問題であれば、
データは**図書館属性**^{*)}に抽象化

*) 規模(学部数、利用者数など)、設立種別(国公私)、機関種別(大学、短大など)、分野、地区など多様な区分け基準で

NIIに期待すること（4）

更に・・・

各図書館が「目的」レベルを示して、NIIが個別に適切な情報処理方法の助言やデータ提供を行うことまで期待する？
⇒ 個別対応ではなく、共通要望があれば業務分析表などに反映させることになる？

例えば・・・

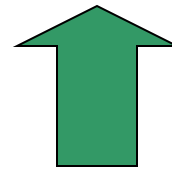
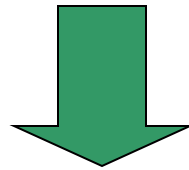
「自館作成書誌にどのような問題がどの程度あったかを評価したい」

⇒ 自館作成書誌について、書誌修正が発生した件数を、書誌修正の内容別×修正館＝自館or他館別 に提供？

おわりに

各図書館

問題意識／評価目的



N I I

データ提供／助言／+α

N I I に求めてばかりでは無理があるが...